

福祉サービス第三者評価

〔令和4年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ田端新町保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 未来の希望に向かって発展・向上する元気な子どもを育む 心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・子ども一人一人に平等で、深い愛情を持ち日々接することのできる人材 ・子どもの発達段階を理解し、状況に応じた適切な援助や保育ができる人材 ・危機管理能力を持ち、常に安全への配慮を欠かせない人材 ・保護者との信頼関係を大切にし、子どものにとって最善の保育を追及できる人材
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・向上心を持ち、研修等への意欲的な参加で、保育力向上への努力を惜しまない姿勢 ・乳幼児期の人間形成に重要な時期に携わっている自覚と責任感 ・子ども主体の保育の実現

調査対象

保育園に通っている園児16世帯17人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

施設の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱により回収を行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

17

16

16

13

81.3

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」76.9%、「満足」15.4%の計92.3%であった。自由意見では、「手作りおもちゃや興味のあることを工夫して遊んでくださっていて大変ありがたいです。」「沢山の写真を撮ってくれ、園での様子がよくわかります。」「子どもの名前と顔をみなさんすぐに覚えてくれて可愛がってくれている様子がわかります。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関することなど、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中13問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「色々な遊びをしてくださったり、ハイハイやつかまり立ちが出来たときに成長を喜んでくださったりしていて役立っていると感じます」「先生や他の子どもとの関わりで、家では出来ない経験をさせて頂いています」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「制作物を家に持ち帰り、家で遊ぶことがあり、興味関心を持っている証拠だと思います」「家ではなかなかさせてあげられない、工夫された様々な活動やイベントを実施して頂きありがとうございます」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「子どもの食わず嫌いを直そうと対応してくれたり、食材をかえて子どもが食べられるようにするなど配慮してくださる有難いです」「形状や量、アレルギーのきめ細やかなご配慮を頂いておりありがとうございます」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	1	0	0
「はい」の回答は92.3%、「どちらともいえない」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「極力、公園や園外施設(消防署など)に連れ出してくださり有難いです」「公園で砂を触ったり、消防署に訪問したりと、自然や社会と関わる機会が多いと感じます」という声が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	2	0	1
「はい」の回答は76.9%、「どちらともいえない」の回答は15.4%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「急な残業時、延長保育の対応をしてくださり有難かったです」「病院に行くときなど柔軟に対応してくれていると思います」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「不審者訓練などがあるようなので特に不満はありません」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	9	4	0	0
「はい」の回答は69.2%、「どちらともいえない」の回答は30.8%であった。 自由意見では、「行事への参加がコロナにより制限されておりどちらとも言えません」という意見が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「育児に関する悩みや不安などについて相談にのってくださり、連絡帳にも丁寧なお返事をくださったので感謝しています」「いつも相談にのってくださり、アドバイスを頂けます」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「こまめに清掃や殺菌対応をしてくださっています」「毎朝きれいに掃除してくださっており、また、整理整頓されたきれいな空間だと思います」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「皆さん、親切丁寧で服装なども全く問題ありません」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「怪我や病気の際、園での様子や怪我の原因などを冷静に説明して頂けるので信頼できます」「大きな怪我や病気はないですが、湿疹などにも良く気づいてくださり、身体をぶつけたことの報告などもしてくれます」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	2	0	3
「はい」の回答は61.5%、「どちらともいえない」の回答は15.4%、「無回答・非該当」の回答は23.1%であった。 自由意見では、「まだそういったトラブルはありません」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「だんだんとやりたいことができていますので尊重してくれていると思います」「頭ごなしに怒らず、子どもに理由を聞いている姿を良く拝見しています」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	12	0	0	1
「はい」の回答は92.3%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、「特に問題に思ったことはありません」という声が寄せられていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「連絡帳を毎日丁寧に書いてくださっていますし、お迎え時にもその日のことを色々教えてください」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	13	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	8	3	1	1
「はい」の回答は61.5%、「どちらともいえない」の回答は23.1%、「いいえ」の回答は7.7%、「無回答・非該当」の回答は7.7%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○非該当
サブカテゴリ1の講評			
当該園の深い想いがホームページやFacebookなどで幅広く発信されている 当園のホームページには、系列園と共通する保育理念や保育の特色、給食への思いなどのほか、地域の子育て家庭を対象とする月極保育や一時保育、延長保育の案内など、園に関わる情報が詳しく掲載されている。また、区の入園相談窓口にも園案内のリーフレットを置かせてもらったり、子育て支援の冊子にも情報を提供し、行政と連携して広く発信している。さらに、子育て支援のポスターを作成し、近隣施設に掲示を依頼している。 近隣の子育て関連施設で情報が得られ利用希望者にわかりやすい情報提供を心がけている 地域の子育て家庭が利用しやすい子育て広場や児童館、図書館などの近隣施設に子育て支援ポスターを持参し、掲示を依頼している。今年度は「給食体験会」「子育て相談」「保育所体験」の子育て支援ポスター掲示を依頼し、「給食体験会」では育児家庭を対象に保育園給食に興味のある人や子どもの食事に悩みのある人などに離乳食・ようじ食について、園のメニュー紹介などをし、子育て支援と共に園保育を知ってもらう機会としている。園の情報提供については、外国籍の人も想定し行事や保育内容を写真を用いて見やすくわかりやすく提供している。 個別の事情に考慮した見学対応を心がけ、園の様子を丁寧に伝えている 園は利用希望者に対しての園見学日を設定せず、見学希望の問い合わせがあった際には、希望日時を聞き、希望に沿った日程で園見学ができるようにしている。子どもが遊んでいる様子が分かりやすいように10時からの見学を基本としているが、家庭の事情に応じて午後の見学にも対応している。見学者には、入園ガイドを配布し園の状況を詳しく説明している。給食について、施設設備の様子、活動内容についてなどを園内を案内しながら、丁寧に伝え、見学者の質問に答えている。			

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
園生活における基本的ルールや重要事項を個別の面接で伝え同意を得ている 園では入園前に個別面接を行い、園生活の基本的ルールや重要事項を重要事項説明書やMIRATZ田端新町保育園しおり、利用契約書を用いて説明している。重要事項説明書としおりに園の概要、保育園と保護者の連絡について、緊急時の対応方法、非常災害時の対策、保育内容に関する相談・苦情、Facebook写真についてなどを記載し、利用契約書にて個人情報の取り扱いについて説明している。個人情報の取り扱いを含む重要事項については利用契約書にて、Facebook写真についてはFacebook承諾書を用いて保護者の同意を得ている。 子どもが園生活を送るために必要な情報を入園面接で確認し、記録している 入園面接をするにあたり、保護者には事前に「入園申込書」や「入園までの生活状況」を用いて家庭状況や食事・睡眠・排泄・清潔・着脱などの生活に関すること、言語・あそび・親の関わり方・保育歴などの育ちに関することを記載してもらい、個別に面接を行っている。面接で記載内容を確認し子どもが園で生活するために必要な情報として記録、保管している。家庭の事情や保護者の意向、保育園に伝えておきたいことなどについて丁寧な傾聴を心がけ必要な情報として確認し記録している。 入園時やサービス終了時の子どもや保護者の不安が軽減されるよう様々な配慮をしている 入園時は、初めての場所で過ごす子どもの不安や保護者の就労状況を考慮し、子どもにも保護者にも優しい計画となるよう入園面接の際に、保護者と慣らし保育の日程について打ち合わせを行っている。「慣らし保育スケジュール」で目安を知らせ子どもの状況に応じて、食事やミルクが取れないなどの場合には相談して延長する場合もあることを伝えている。サービスが終了する2歳児の保護者会にて、卒園先について話をしたり、見学を進めたり、区の次年度の保育利用案内や保育所利用申請書を配布できるよう用意し、保護者の相談に応じている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に応じて、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引き継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
個々の子どもの心身や生活状況を把握し、発達や成長の様子を児童票に記録している 入園面接時に入園までの生活状況を把握し全職員で周知している。年に一度個人面談を行い、家庭の様子や園での様子、食事・排泄・あそび・友達との関わりなどを共有し、確認した子どもの状況や心配なこと、質問などの保護者のニーズを個人面談記録に記録している。子どもの発達の様子は担任が児童票に記録している。児童票には月齢を目安に健康生活、人との関わり・言葉、身体の育ち、保育上参考となる事項について記録している。児童票は管理された閲覧できる場所に保管し、職員が個々の子どもの状況を共有できるようにしている。 全体的な計画をもとに指導計画を作成し個々の育ちを丁寧に積み重ねる保育を行っている 園は「健康な心と体をつくる・友達といっぱい遊ぶ・自分の想いを素直に表現できる子どもを育む」を保育目標とした全体的な計画をもとに各クラス月間指導計画、週日案を作成している。週日案は具体的な活動と配慮事項・働きかけ・環境構成を記載し実践のための具体的な計画としている。毎月個別計画を作成し、子どもの様子や育てたい内容、評価・反省を記載し、個々の子どもの成長や発達に合わせ、その子らしさを大切にする計画となっている。各指導計画は園長に提出し、見直しや修正を図り個々の子どもの育ちを丁寧に積み重ねる保育実践に繋げている。 子どもの様子や成長を日誌、個別計画に記録し担当職員間で共有し保育に反映している 毎日、保育日誌に保育活動の内容や子どもの姿(健康に関すること、育ちの様子)を個別に記録している。子どもの発達や育ちの様子については毎月、月末に個別計画の評価反省に記載し、園長・主任が内容を確認している。各クラスの指導計画・個別計画をクラス担当の職員間で共有し個々の子どもに応じた実践となるよう口頭で伝えている。各クラスの指導計画のねらいや個別で気になることは、毎月の職員会議で周知し、確認している。欠席連絡など子どもに関する情報を朝礼ノートに記載し、情報を職員間で共有し保育に繋げている。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
個人情報保護に努め、子どものプライバシーや羞恥心に配慮し保育している。 個人情報の取り扱いや目的については、入園前の面談時に丁寧に説明を行い、利用契約書にて同意を得ている。園の様子をFacebookに上げる際には、Facebook同意書で保護者からの同意を得ている。同意を得られなかった場合は、子どもの姿を映さないよう、プライバシーに配慮した対応をしている。水遊びを行う際には、洋服を上だけ着用し実施するようにしている。おむつ替えはトイレで行い、外部から見えない場所で取り換えるなど子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。 子ども一人一人を尊重した保育に努め、虐待防止に対して職員の理解を深めている 子どもが大切にされている実感を持てるよう誕生児の保護者を招いて毎月誕生会を実施している。年間計画で伝え、保護者の参加を促している。事情で参加できない時には、翌月に参加して貰えるよう働きかけ、誕生日を家庭と一緒に祝いしている。配慮を要する子どもに適切な対応ができるよう療育施設主催の研修会に参加し職員に周知している。虐待チェックシートを用いて不適切な養育が行われていないかの確認や、「Mission Vision Value」を用いて子どもの人権尊重や行動規範を確認し、職員の理解を深めている。		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改定の際や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
各種マニュアルを整え、職員が日常的に活用することで業務の標準化を図っている 園は日常的に行う業務や必要な対応の標準化を図るために怪我対応マニュアル・避難訓練、不審者訓練マニュアル・水遊びマニュアル・感染症対応マニュアル・早番、遅番マニュアル・掃除マニュアル・嘔吐対応マニュアル・食物アレルギー対応マニュアルなど各種マニュアルを整備している。マニュアルはいつでも見られる場所に保管し、職員がわからないことが起きた際や業務点検の手段として活用できるようにしている。嘔吐処理の仕方などは見やすい場所に掲示し、施設、業務のチェックは一覧表にして活用しやすくするなど業務の標準化を図っている。 サービスの向上をめざし基本事項や手順、業務内容を定期的に点検し見直しを行っている 年に2回運営委員会を行い事業者と代表保護者、外部委員(社会福祉事業について知識経験を有する)と共に提供しているサービス内容や園の運営、基本事項などについて確認し、意見を出し合い点検・見直しを行っている。各種手順書、マニュアルは年度末に職員間で確認し手順や内容の見直しが行われている。保護者がいつでも園に意見を伝えられるよう園の入り口に意見箱を設置している。毎年、全保護者にアンケートを実施し園運営や保育内容、意見・要望などについて、保護者の意向や意見を把握し園運営に反映させることでサービス向上につなげている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	34 / 34
サービスの実施項目			
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評価点(〇〇〇〇〇)・非該当1			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		●非該当
評価項目1の講評			
日々の子どもの様子を観察し、子ども一人一人の全体的な姿を把握している 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人一人の全体的な姿を把握するために、個々の状況を児童票に記載して把握している。また、登降園時に保護者とやり取りをする連絡帳に生活の状況などを記載してもらい子どもの状況を把握している。各クラスには、おもちゃや絵本、ブロックなどの玩具を整えて、子どもたちが好きなところで遊べるようにコーナーを設けている。子どもの発達に合わせた手作り玩具を提供したり、子どもが自分で選択して主体的に遊べるように取り出しやすい玩具棚を用意している。 様々な習慣や文化があることを日常生活の遊びの中で体験している 様々な習慣や文化があることを日常生活の遊びの中で体験してもらうために、外国人講師を招き、英語あそびの時間を設けている。外国人講師からネイティブの英語をききながら、音楽やダンスなどを交えながら英語にふれ、感じることを楽しんでいる。合同保育を実施し異年齢の子どもとの関わりを増やすことで、お互いを尊重できるようにしている。特別な配慮が必要な子どもの保育にあたり、療育施設主催の研修に参加し、障害や必要な配慮について学んでいる。支援方法などは職員間で検討し、個別の指導計画に反映して実践している。			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排泄などの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
登園時は家庭での状況を把握して受け入れ、降園時に子どもの様子を伝えている 登園時は明るい挨拶と共に視診を行い、体調・心情・外傷など見かけ上の異変についてキャッチできるように努めている。また、連絡帳の確認と共に、個別に家庭での様子を保護者に確認している。保育への配慮や職員間で共有すべき情報は伝言ボードに記載して職員間で周知している。降園時は、担任以外が対応する際には、担任から番番の担当職員に番番の職員に申し送りを行い、職員と保護者1対1で、じっくりとその日の活動内容やできごと、成長が伝わるエピソードなどを交えて子どもの様子を伝えている。 基本的な生活習慣の獲得や休息の長さや時間帯は家庭と連携して取り組んでいる 指導計画や保健計画において基本的な生活習慣について職員間で確認し、一人一人の発達や家庭での取り組んでいる様子を考慮しながら身につくように援助している。例えばトイレトレーニングは家庭と連携し子どもの成長に合わせて個々に開始している。休息(午睡)の長さや時間帯は、子ども一人一人の成長や発達に合わせた時間、登園時に確認した夜の入眠時間、体調などに合わせて配慮し、午前寝、午睡、夕寝などを行っている。特に月齢によって発達の状況が大きく変わってくる0歳児は、午前寝や食事の時間を早めるなどの配慮をしている。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
主体的に関われるような援助と、親しみをもった言葉かけを丁寧に行っている 子どもの自主性、自発性を尊重し、子どもが主体的に活動できるように遊具は取り出しやすい位置に配置している。種類豊富な手作り玩具を用意し、子どもの発達や興味を捉えながら玩具を入れ替えている。また、季節やその時期に応じて絵本の入れ替えを行い、子どもの興味・関心を広げている。保育士自ら親しみをもった優しい言葉かけをし、優しい雰囲気の中で満たされた生活ができるように配慮している。絵本の読み聞かせやパネルシアターなどを積極的にを行い、言葉の理解や発語の意欲が育まれるよう援助している。 制作やリトミック、歌やダンスなど子どもが様々な表現活動を楽しんでいる 子どもが様々な表現を楽しめるように、季節や発達に合った制作やリトミック、歌やダンス、ごっこ遊びなど様々な表現を楽しめるようにしている。0歳児から培われた表現を発表会として行い、発達に合わせたプログラムで歌やダンスを遊びの中で楽しみ、表現遊びを披露する機会を設けている。言葉の獲得に向けては、自分の言葉で相手に伝えようとする姿が見られた時、まずは保育士が話をする楽しさを言葉のやり取りの中で伝えている。他児とのやり取りでは仲立ちし、相互の気持ちに共感して発達に合わせて言葉を伝えていくことを大切に行っている。 その季節しか味わえない自然物に触れる機会をもち、戸外活動を楽しんでいる 戸外遊びでは、自然の中で伸び伸びと遊ぶことで体を動かす楽しさを味わうほか、体の発達が促され、交通ルールなども体験できるように取り組んでいる。春には桜の花びら、秋にはどんぐりや松ぼっくり、落ち葉拾いなど、自然や季節を感じられる遊びをたくさん取り入れている。拾った自然物を使ってごっこ遊びで使ったり、制作して楽しんだりもしている。積極的に散歩に出かけて道中や散歩先の公園などで様々な感覚を刺激し、五感を使って自然に触れて四季を感じている。			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	
	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目4の講評				
行事は、0～2歳児が楽しめて発育に合った時間・内容で実施している 0～2歳児が楽しめて、個々の発育に合った時間・内容で実施できるように配慮している。誕生会や七夕会、夏まつり、お月見会、ハロウィン会、クリスマス会、節分会、ひなまつり会などの季節行事を年間で計画し、パネルシアターを使って子どもたちにわかりやすく行事の意味を伝えている。子どもたちが行事に興味をもてるように歌をうたったり、話や絵本を読んだりし、積極的に取り組めるようにしている。例えばハロウィン会では、手作りの衣装を着て、パネルシアターを観たり、「トリックオアトリート」と言ってジュースを貰ったりと楽しんでいる。 子どもが意欲的に行事に取り組めるよう保護者の理解や協力を得るための工夫をしている 毎月の誕生会には、その月の誕生児の保護者を招き、みんなでお祝いしている。保護者には、事前に日程を手紙で知らせ、仕事の調整をして参加できるように配慮している。発表会は、0歳児から参加し、年齢ごとのねらいで取り組んでいる。0歳児からはみんなと楽しみ、2歳児になると歌やダンスを通して自分を表現することの楽しさを十分に味わい、1年間を通してできるようになったことを発表することで達成感を味わえるように取り組んでいる。保護者には撮影したDVDを後日配布しており、子どもが普段の環境で発表会を楽しめるようにしている。				
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	
	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当	
評価項目5の講評				
保育時間の長い子どもが安心し、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように配慮している 0～2歳児の当園は、子どもが安心して過ごせるよう子ども一人一人に寄り添った保育に努めている。室温や湿度などに配慮し、快適な環境で過ごせるようにしている。朝・夕・延長保育時間では、合同保育を行っており、異年齢の子どもが安全に遊べる環境や職員配置に配慮し、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように配慮している。静と動の遊びのバランスを保ち、疲れが見えた時には休む環境を作るなど子どもの様子をみながら対応している。 在園時間の異なる子どもたちが、楽しく遊べる環境作りに努めている 日中のクラス保育から、朝・夕の保育、延長保育と保育形態の変化がある場合でも、玩具の選別や職員の配置など、子どもが安心して楽しく過ごせるように配慮している。合同保育時間では、他のクラスのお友だちと過ごしたり、担任以外の保育士と触れ合って遊んだり、日中とはちがう玩具で遊んだり、子どもが楽しく過ごせるように配慮している。延長保育の際には子どもの希望を聞きながら毎日違う内容の活動を行っている。				

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当														
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当														
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当														
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当														
	評価項目6の講評 子どもが食事を楽しく食べられるようにメニューや雰囲気づくりに配慮している 食事の時間は、テーブルの配置や子どもの席の配置、椅子の高さなど、年齢に応じて整え、クラスごとに友だちや保育者の顔を見ながら少人数で食事がとれるように環境設定している。給食は、旬の素材を使用し、素材の味を大切に薄味で彩りに配慮している。メニューは2週間のサイクルメニューとしており、日々子どもたちの喫食状況や給食会議などを通じて2回目には食材の切り方や味付けなどの工夫をするなどより良い食事の提供に向けて取り組んでいる。また、行事の際には盛り付けや彩りなどを工夫し、子どもたちが食事を楽しめるようにしている。 食物アレルギーや未摂取の食材などに配慮し、安心・安全に努めている 食物アレルギーのある子どもに対しては、除去・代替食を提供している。毎月保護者に渡す献立表には、保護者のサイン欄を設けており、例えば小麦アレルギーの場合は小麦粉を使った材料の文字を赤くしてわかりやすくしている。未摂取の食材についても伝えるようになっており、基本は除去の対応としている。また、未摂取の食材については家庭で複数回試してもらおうようお願いしている。食事の提供は、食物アレルギー対応マニュアルに沿って個々に配慮している。 食育年間計画を立案し年齢や発達に沿った食育活動を行っている ピーマンの栽培やとうもろこしの皮むき体験、スイカ割り、お月見団子作り、クッキー作り、稲穂観察、新米おにぎり作りなど、子どもたちの食への興味・関心が高まるようにたくさんの食育活動を取り入れている。子どもが楽しんで参加できる食育活動を取り入れ、米粉クッキー作りなど、食物アレルギーのある子どもにも配慮した食育活動を行っている。保護者には、給食の展示や食育活動の様子がわかるSNSからの発信などを通じて食の大切さを伝えている。															
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防・防止できるように援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防・防止できるように援助している	○非該当	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当			
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防・防止できるように援助している	○非該当														
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当														
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当														
	評価項目7の講評 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防できるように援助している 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気や怪我を予防・防止できるように、年間保健計画を立案している。手洗いやうがいなどの生活習慣や安全についてなど、絵本や紙芝居、パネルシアターなどを使って、子どもたちの年齢や発達に合わせて理解しやすい内容で伝えている。園では、自分で自分の身を守る行動を自然ととれるようになってもらいたいという願いから、成長に合わせた伝え方の方法を多様に考え実施している。 保護者と連携をとって、子ども一人一人の健康維持に向けて取り組んでいる 保護者には、乳幼児期にかかりやすい病気や子どもの健康について、感染症の対応についてなどを伝え、家庭と連携しながら子どもの健康維持に向けて取り組んでいる。また、乳幼児突然死症候群(SIDS)については、入園面接で伝えと共により、うつ伏せ寝の子どもへの保護者に向けて、更にSIDSについて詳しく伝え、家庭でもうつぶせ寝を避けて眠れるようにしてもらおうなど協力を仰いでいる。															

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
保護者とのコミュニケーションを大切に子育てや就労など個々の事情に配慮している 保護者の子育てや就労状況等の個々の事情に配慮し、急な仕事の都合による保育時間の変更など保護者の事情を丁寧に聞き取り、柔軟な対応に努めている。保護者の家庭の事情や、保護者の意見や悩み等、日々サポートしながら把握するように努めている。保護者同士が交流できる機会として、保護者会を実施しており、同じ年齢の子どもをもつ保護者として育児の喜びや悩みなどを話し合う機会を設け、交流する良い機会となっている。 保護者と職員の信頼関係を深め、子どもの育ちに関する共通理解の形成に取り組んでいる 入園面接や個人面談、を通じて、子どもの発達や保育、家庭での様子を相互に確認し今後の育児や保育について保護者と話し合っている。また、日々のコミュニケーションを大切に、降園時には子どもの一日の様子などを伝えるよう取り組んでいる。わが子の誕生月には、誕生会に保護者を招き、保育参加をしてもらったりすることで、園での子どもの様子を見てもらい、保育への理解を深められるように取り組んでいる。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
積極的に散歩にでかけ、地域の社会資源を活用して様々な体験ができる機会を設けている 積極的に散歩にでかけ、近隣の公園や児童館、図書館などを利用している。コロナ禍でも交流活動を工夫して行っており、勤労感謝の日にもお世話になっている、お肉屋さんや魚屋さん、給食の調理員さんへ勤労感謝の日のプレゼント制作をしている。今年度は子どもたちが手型や足型をとって作ったカレンダーをプレゼントしている。消防署見学では、消防士の話の聞いたり、消防車を見せてもらったりしている。コロナ禍ではあるが、工夫しながら地域資源を活用して子どもが多様な体験ができるような機会を設けている。 子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している 子どもが保育園の職員意外と交流できる機会として、消防署見学や高齢者福祉施設、児童館、図書館、外国人講師による英語遊びなどを設け、貴重な体験をしている。地域の方を対象とした、子育て相談、保育所体験、離乳食体験会、福祉施設との交流会など、地域のニーズを把握しながら、地域貢献活動を行っている。			

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1	評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	
	あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	
2	評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	
	あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	
3	評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
	あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
	あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
	あり	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
	あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
苦情解決制度の周知を図り、保護者の意向を把握し対応する仕組みを作っている 園は入園面接時に利用契約書を用いて、保育に関する相談・要望・苦情などに誠実かつ迅速に対応するための苦情解決制度について説明している。保育内容に関する問い合わせ、苦情などの受付先を明示し受け付け時間について知らせている。MIRATZ田端新町保育園しおりや重要事項説明書に「保育内容に関する相談・苦情」を記載し、苦情解決責任者などを園玄関に掲示し、保護者の周知を図っている。いつでも意見が出せるよう意見箱を設置し、毎年、全保護者を対象にアンケートを行い、保護者の意見・意向を把握し組織的に対応する仕組みを作っている。 様々な取組を行い、虐待に対しての組織的な防止対策に取り組んでいる 利用者を傷つけるような言動がないよう、個々の職員が自身を振り返り保育園職員としての姿勢に立ち返る「Mission Vision Value」を作成し行動規範を明記している。子どもとの関りで意識すべきこととして、「保育をするにあたっての注意事項」を全職員に配布している。年に一度「人権擁護のためのセルフチェックリスト」に取り組み園長に提出している。虐待予防チェックシートを用いて虐待の疑いのある子どもの情報を職員が共有し、支援の必要な家庭は関係機関と連絡を取り合い、援助に繋げるなど虐待防止対策に取り組んでいる。 様々なリスク対策を検討し非常時に備えた対応や訓練に取り組んでいる 園は地震や火災の発生、不審者遭遇など園内外で想定される災害や侵入に対応するため毎月訓練内容を定め、年間防災訓練計画・年間不審者訓練計画をもとに訓練を行っている。非常災害時対応として水や非常食を常備し非常食在庫一覧で管理している。「BCP新型コロナウイルス感染症対策計画」を作成し非常時に備えている。地震や台風などの災害時の連絡方法を「震災時対応についてのお知らせ」で保護者に知らせ玄関に掲示している。事故が起きた際には事故報告書を記入し、原因や対策を考えている。事故対応に備え、年に3回AED訓練を行っている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル①	ホームページやFacebookを活用し園の情報をわかりやすく発信している	
内容①	園はホームページやFacebookを活用し、誰でもいつでも見られる方法で園の情報を発信している。Facebookは毎月更新し、子どもたちの日常の様子や行事の様子、食事風景や地域との関り、運動遊び、自然体験、友達と関わる様子など、子どもたちの実際を子どもの様子や表情で伝えることを大切にしている。こうした取組は園の利用希望者の特性を考慮したわかりやすい情報発信となっており、また、保育園の様子を広く伝えるものとして、保育で大切にしていることや、子どもが豊かに育つ環境の大切さを社会に発信するものとなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	外国人講師による英語遊びを取り入れている	
内容②	日本の伝承行事やハロウィン、クリスマスなどの行事を子どもの年齢に合わせて楽しみながら行い、各国の習慣や文化の違いを体験している。また、通常の保育のカリキュラムのほかに特別カリキュラムとして、1・2歳児は毎月外国人講師によるネイティブな英語を聞きながら行う英語遊びに取り組んでいる。歌やリズムのある踊りを通して楽しみながら外国の言語に触れている。外国人講師による英語遊びを取り入れて、言葉獲得期の子どもたちが、英語の発音や響きなどに触れる機会を設けている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎日の子どもの様子を個別に日誌に記録し、個々の育ちを支える計画や実践に繋げている
	内容	園は日誌の個別記録に子どもの様子を丁寧に記録している。子どもは一人一人違い日々大きくなっていく。毎日の記録は子どもの成長と共に保育士の視点や子どもを見る目が記される。この大切な記録をもとに個々に育みたい力を個別計画で示している。何を経験させたいか、そのために何を準備するか、実践計画である週日案は計画変更を赤字で訂正し変更の見える化を図っている。子どもの姿に合わせた柔軟な計画は子どもの主体性を育み豊かな保育に繋がっていく。園は日々の記録を大切に個々の育ちを支える計画と実践に取り組んでいる。
2	タイトル	子どもたちの食への興味・関心を高め、食べる意欲を育んでいる
	内容	「食事のリズムをつかむ」から始まり「いろいろな食材に興味をもつ」「食事作りを体験する」「意欲的に自分で食べようとする」と、期別にねらいをもち、さまざまな食育活動に取り組んでいる。0～2歳児の当園は、実際の食材を見る・触る・においを嗅ぐ・味わうことを大切に行っている。園が情報発信として活用しているFacebookからも子どもたちが興味をもちながら活動している様子が窺える。クッキー作りや稲穂観察、新米おにぎり作りなど、さまざまな食育活動を通じて子どもたちの食への興味・関心を高め、食べる意欲を育んでいる。
3	タイトル	行事は、普段の保育に変化をもたせるものとして無理なく楽しみながら行っている
	内容	0～2歳児の小規模園として季節の行事を楽しみ、個々の発育に合った時間・内容で実施している。誕生会にはその月の誕生児の保護者を招待し楽しい時間を共有し保育園の様子を知ってもらい、保育への共通理解にも繋げている。発表会は、日ごろの表現遊びを発表する場とし、0歳から積み重ね、2歳児になるとできるようになったことを発表する場にもしている。子どもが普段の環境で発表できるように保護者の理解のもと保護者観覧はしていない。そのかわりに発表会の動画撮影を行い、保護者にはDVDを後日配布し子どもの成長を共有している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育の質の向上をめざし、個々の育ちと集団の育ちを図る指導計画の共有化に期待したい
	内容	園は「子どもの人間形成に重要な時期に関わっている自覚と責任感・子ども主体の保育の実現」を職員に持って欲しい使命感とし、子どもの育ちを丁寧に見守り支える保育に取り組んでいる。0～2歳児の人として生きていく力の根を育む成長著しい時期の大人の関わりや環境は、未来に向かう子どもの育ちに大きく関わるものである。個々の育ちを支える個別計画と集団の育ちを支える指導計画を職員皆で検討し共有することは育ちの連続性を園として支えると共に職員の子ども理解、発達の学びへと繋がるため、指導計画の共有化に取り組むことに期待したい。
2	タイトル	園で行っているリスク対策を見直し、さらなるリスクマネジメントに期待したい
	内容	園は様々な災害や事故、不審者などに対応できるよう、いろいろな場面、事象を想定し毎月訓練に取り組んでいる。保護者に災害時の連絡方法について、いくつもの方法を提示し、混乱の中で連絡を取る方法について周知を図っている。防火設備点検や避難経路の策定など安全を図る取組をしている。災害は決して想定した通りには起こらない。起きたことに対して職員が情報を共有し臨機応変に対応していく力が望まれる。園で行っているリスク対策について過去を教訓に見直し災害時用のBCPを作成するなどのさらなるリスクマネジメントに期待したい。
3	タイトル	様々な工夫をしながら保育を発信しているため、ICTの活用に向けたより一層の検討に期待したい
	内容	当園は、保育の様子などを発信するのにSNSを活用し、毎月更新している。日々の保育の様子や行事などの写真についても令和5年度より業者が介入して購入できる仕組みを整えている。登降園の管理はICカードでシステム構築されている。一方で月案や週日案、保育日誌など手書きで作成しており情報共有するにはファイリングされた書類を直接見ることとなる。今回の利用者調査結果には「お便りをメール配信などにしてほしい」などのコメントが寄せられており、電子連絡帳や職員間の情報共有に向けた新たなICT化への取組の検討に期待したい。